

令和4年度 川内中学校 学校評価計画

	重点課題	重点目標	活動計画	評価指標
学習指導	確かな学力の育成	①学習規律の確立を図る。 ②基礎的基本的な学習基盤の確立を図る。 ③課題解決につながる思考力、判断力、表現力の育成を目指した授業改善を図る。 ④主体的に学習する習慣、家庭学習の充実を図る。	①学校全体・全教職員で授業に臨む基本的姿勢の確立 ・「チャイム着席」「授業の準備物」「正しい姿勢」「授業に集中」「授業のルール10か条」を掲示するなど可視化し、徹底する。 ②生きて働く知識・技能を身に付ける。 ②-1 定期テストで基礎基本の問題で確認する。 ②-2 <u>読書への興味や読書習慣を身に付けるために、本の紹介を取り入れたり、冊数調べをする。</u> ②-3 徳島新聞「鳴潮」の視写を週1回行い、読む力、書く力を身に付ける。 ②-4 各教科で教科書を読むなど、音読を取り入れ、聞く力、話す力を身に付ける。 ③授業改善 「わかる授業」のために見通しのある工夫した授業の展開 ③-1 「目標の明示」→「課題解決のための学習活動」→「振り返り」 ③-2 ICT等、学習効果のある工夫と授業改善 ③-3 徳島県学力向上プリントの計画的な活用、プラス1課題の実践 ③-4 <u>各教科で取り組む一点突破の学力向上方策</u> ④テスト前に「学習記録表」にて目標を設定し、学習状況を記録する。	①授業の準備物ができて、チャイム着席ができる生徒が100%である。 ②-1 授業内容の理解が十分である生徒が80%以上である。 <u>テストで基礎基本の問題の正答率が90%以上である。</u> ②-2 1年間で10冊以上本を読んでいる生徒が80%である。 ③-1 授業のめあてを示し、振り返りの時間を確保していると回答した教師が90%である。 ③-2 <u>タブレット端末を1日1回は何かの教科で使う。毎日、持ち帰り、週末は個別学習ができた生徒が80%以上である。</u> ③-3 よく分かる授業を実践していると答えた生徒が80%である。 ④ <u>家庭学習が習慣化し、1日平均1時間以上学習に取り組む生徒が80%以上である。</u>
道徳・人権教育	差別を見抜き許さない姿勢、不当な差別に立ち向かう行動力の育成	①言葉を大切にし、礼儀正しい態度を育成する。 ②自他の人権を尊重しようとする人権感覚を育成しいじめや差別を許さない、人権意識と自己肯定感を育む。	①全教育活動を通して、礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導する。 ②年間指導計画を見直し、人権に関する講演会や人権集会を充実する。 ②-1 研究授業の充実 ②-2 道徳教育の推進・充実 ②-3 人権教育の推進・充実	①礼儀や言葉遣い、エチケットやマナーの指導を心がけていると答えた教師が90%である。 ②人を傷付けるような言動がなく周りの人に優しく接している生徒が80%である。
健康・安全指導	心身の健やかな発育と自らの健康の保持増進に取り組む力の育成	①食育を推進し、基本的生活習慣が身に付いた生徒を育てる。 ②生徒会による「自転車運転免許制度」を活用し、交通マナーの向上に努める。 ③防災学習や避難訓練の充実を図り、 <u>地域と連携した学校防災の意識を高める。</u>	①食生活に関するアンケートを実施し、給食の時間、学級活動等において朝食の大切さについて指導するとともに、食育ボード等で啓発する。 ②交通指導計画に基づき、交通指導を徹底する。自転車通学生のマナーの遵守交通安全教室を実施する。 <u>自転車特別許可について指導や見直しを行う。</u> ③避難訓練では南海トラフ地震の対応を行う。 <u>授業中、休み時間、部活中など様々な場面を想定し訓練する。防災委員会による生徒の主体的な活動を行う。</u>	①朝食を毎日食べる生徒が100%、栄養バランスのとれた食事ができている生徒が80%である。 ②交通ルールを守って登下校している生徒が90%である。交通安全教室を年間1回以上実施する。 ③学期に1回程度避難訓練を実施する。 <u>防災意識について危機意識をもつ生徒を80%以上にする。</u>
生徒指導	生徒を認め、寄り添い、褒めて育てる育てる生徒指導	①「ルールを守る」「物を大切に」「他者を尊重する」等の基本的な生活習慣が身に付いた生徒を育てる。 ②常に自分の心と向き合い、自分で正しく判断できる生徒を育てる。 ③あいさつを励行する。	①学級生活や係活動・委員会活動を通して、当たり前のことが当たり前になるよう指導する。 ②学期に1回生活アンケートを実施し、生徒理解に努めるとともに、生徒指導委員会を通して、生徒の把握や情報の共有化を図る。 ③登下校の際、教職員や生徒会によるあいさつ運動を実施する。 <u>授業の始め、終わりの挨拶を丁寧にする。「ありがとうございました」→「礼」を意識化</u>	①学級の役に立っていると回答した生徒が90%以上である。 ②先生は相談したら誠実に対応してくれると回答した生徒が90%、一人一人の生徒理解に努めていると回答した教師が100%である。 ③登下校、授業のあいさつを意識し丁寧に行っている生徒が90%である。
特別支援教育	生徒一人一人の理解に努める適切な支援の実践	①生徒一人一人のよさや能力を引き出し伸ばす教育を進める。 ②保護者との連携を密にし、共通理解のもと特別支援教育を進める。	①校内支援委員会の適宜開催や巡回相談を活用し、特別支援教育の充実を図る。 ②全ての生徒を対象に個々のニーズに対応した特別支援教育を推進するとともに、引継シートを学年・学校で共有したり、個別の教育支援計画・指導計画を作成し効果的に活用したりする。TTの効果的な指導のあり方を考える。	①校内支援委員会を年間3回以上開催する。生徒の特性について学年会を通して手立てを話し、活用する。 ②学習の遅れがちな生徒に適切な支援をしていると回答した教師が90%である。学びの過程で考えられる困難さに対する指導を行う。
キャリア教育	発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進 社会的自立に向けた必要な資質・能力の育成	①特別活動を通して、自己肯定感やキャリアプランニング能力を育てる。 ②「働くこと」の意義を理解し、将来の夢の実現のために計画的継続的に努力する生徒を育てる。 ③1学年から計画的な進路指導を行い、自分に適する進路を選ぶことができる力を育成する。	①学級活動で学級目標やルールを作成したり、学級の問題を話し合いで解決したりする。SDGsを視点とした委員会活動を主体的に行う。 ②各教科等でキャリア教育の視点を取り入れ、キャリアパスポートを効果的に活用する。 ③3年間を見通したキャリア教育全体指導計画を見直し、キャリア教育に関する講演会を実施する。三者面談を有効に活用する。	① <u>集団活動を通して自分の成長を感じると回答した生徒が80%以上である。委員会活動を1か月に1回開催する。</u> ②将来の夢があり、目標をもって生活できている生徒が90%である。 ③家庭で進路や将来のことについて話をしていると答えた保護者が90%である。
開かれた学校	家庭・地域との連携	①保護者・地域への情報提供をきめ細かに行う。 ②地域や関係機関と連携し、信頼関係を構築する。 ③コミュニティ・スクールの体制を整える。	①学年だより、個別メール、ホームページ等を充実させ、必要な情報を保護者地域と共有する。 ②PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。また、地域の人材を活用したり、地域の行事に参加したりする。 ③コミュニティ・スクールの体制を整備し、学校がめざす姿を地域と共有する。	①学校は、情報提供が適切であると回答した保護者が90%である。 ②学校や家への連絡やPTA、地域との連携ができていると回答した保護者が90%である。 ③保護者や地域にコミュニティ・スクールを広報する。